

#### 第4回市立御前崎市民公開講座『年をとるとおこる脳の病気』

今回、第4回目の市民公開講座を、2009年2月7日（土曜日）14時に御前崎市文化会館で開演する予定です。主題は『年をとるとおこる脳の病気』の話をしていただこうと思います。それぞれパーキンソン病、脳アミロイド血管症、認知症が主題です。今回は、認知症を中心とした年をとるとおこる脳の病気を取り上げ、その原因、予防、治療を話していただきます。

ずっと昔の僕らが子供だった頃、昭和30年代には平均寿命は70歳ぐらいで、僕のおばあさんも71歳にて自宅で亡くなりました。脳卒中を60歳ごろに発症し、左の片麻痺（左側の手足がうまく動かない）があったけれど、孫である私や姉のめんどうを良くみてくれました。おばあさんの具合が悪くなった原因は、乳母車で散歩中に転倒して左の股関節と膝関節を殴打して寝たきりになり、発熱し呼吸不全（たぶん肺炎）となって亡くなったのを覚えています。その頃は、自宅で療養するお年寄りが多く、かかりつけの先生が毎日のごとく往診してくださいました。僕のおばあさんは、寝付いてからウーウー唸っているだけで全く会話ができなくなりました。もともとの脳卒中に関節の病気が加わり、いわゆる「寝たきり」状態になってしまったのです。今の時代なら入院して関節の手術をして、一生懸命リハビリを行えば乳母車を押して生活できるようになれたかもしれません。しかし、おばあさんが家で寝込んでから僕の母（おばあさんのひとり娘）は本当に一生懸命介護し、亡くなるまで家中の誰かがそばにいつもついていました。それは現在の医者になった僕にとっても決して悪い医療ではなく、暖かい心のこもった在宅療養でした。時代が進み、産業が発展し都会に人が集中し、家族はばらばらになり、老人は老人のみで若い人は若い人のみで住むようになり、医師も都会に集中し、昔のように家で療養することはできなくなってきました。特に、高齢化に伴う「認知症」はその治療法のみでなく、介護をどうするかといった事が大きな問題点です。市立御前崎総合病院の内科に入院する70%以上が75歳以上で、医師や看護師は日々「認知症」と向き合っています。他の病気と違って「認知症」は、患者本人のみでなく周りの家族に大きな影響があり、原因・治療法・リハビリ・介護など福祉全体にわたって整備しなければならない課題です。

今回の講演は、パーキンソン病や認知症などの話ですが、「認知症」の初期症状は何か？なにに気がつけたら「認知症」にならないで元気でいられるか？「認知症」の予防法はあるのか？戦後の困難な時期をがんばって生きてこられた高齢者の医療や介護をどうしたらよいか？そして高齢者はどうしたら幸せになれるか？を考える良い機会です。どうぞ講演をお聞きになって、「認知症」の医療や介護について理解していただければ幸いです。

市立御前崎総合病院  
病院長 大橋 弘幸